2021 年 7 月 16 日
株式会社シャノン

ニュースリリース

シャノン　オンライン・イベント関連事業について
株主手帳 8 月号から取材を受けました

株式会社シャノン(本社：東京都港区、代表取締役社長：中村　健一郎、証券コード：3976、以下シャノン) は、2021 年 7 月 16 日発売「株主手帳 8 月号」の「木村佳子のズバリ!!社長対談」に掲載されたことをお知らせいたします。

当社は、「SHANON MARKETING PLATFORM」を用いて、マーケティングオートメーションサービスとイベントマーケティングサービスを提供していますが、今回は、創業初期からサービス提供しているイベントマーケティングサービスについて、コロナ禍で注目を頂いているオンライン・バーチャルイベントを中心に取材をしていただきました。

1. 株式会社シャノンについて

シャノンは、クラウドテクノロジーをコアに、企業のマーケティング課題を解決する製品・ソリューション・サービスを提供しています。イベント、セミナー、マーケティングオートメーション、デジタルとアナログを組み合わせるデジアナマーケティングなどを実現するシャノンのマーケティングクラウド製品は、金融、IT・通信、製造業など業種を問わず、大規模から中規模まで多様なシーンでご利用いただいています。

商号	：株式会社シャノン（証券コード：3976）
代表者	：代表取締役社長　中村 健一郎
所在地	：東京都港区三田 3-13-16 三田 43MT ビル4階
設立年月日	：2000 年 8 月 25 日
事業内容	：クラウド型マーケティングソリューションの企画・開発・販売・サポート マーケティングにかかわるコンサルティングおよびサービスの提供
URL	：https://www.shanon.co.jp/

2. 本ニュースリリースに関するお問い合わせ先

株式会社シャノン マーケティング部
TEL：03-6743-1565
E-mail：marketing@shanon.co.jp

3. 報道関係者からのお問い合わせ先

シャノン PR 事務局（(株)イニシャル内）　担当：小野・山田・根本
TEL：03-5572-6316
FAX：03-5572-6065
E-mail：shanon@vectorinc.co.jp

ズバリ!!

木村佳子の社長対談

今回の対談の様子は、動画でもご覧いただけます。



Profile◉きむら・よしこ
ラジオ日経／個人投資家向けの経済情報番組キャスター出身。NPO法人日本IRプランナーズ協会「個人投資家のための企業IR研究会」座長、2008年同協会理事、2016年～2021年央まで理事長（現理事）。国際連盟認定/最上級テクニカルアナリスト。日本FP協会CFP。一級FP技能士（国家資格）。取引所、新聞社主催で基調講演を務める。YouTube「木村佳子の気になる銘柄」月～金正午配信中。

マーケティング分野のIT企業「シャノン」のオンライン・イベント関連事業は期待大！

［ゲスト］シャノン（3976）中村健一郎社長



▲シャノン本社の受付にて。木村佳子氏（左）、シャノン 中村健一郎社長（右）

株式会社シャノンをご存じだろうか？　現社長・中村健一郎氏が慶応大学在学中の2000年に起業し、2017年1月に東証マザーズに上場したマーケティングを得意とするIT企業だ。

ITといっても裾野は広い。専門分野も多岐で個人投資家には個々のIT企業の全容を知ることは難しい。しかし、大規模なイベント、例えばIRフェアや国際見本市などで既に私たちはシャノンのシステムに触れている。同社のビジネスモデルを知れば「ああ、そういうことをしている会社か」と親近感が沸くはずだ。

私たちは興味のあるセミナーを見つけるとパソコン、スマホ、時にはハガキなどで申し込む。すると返信メールが来たり、QRコードを得たりして、当日、会場にスムースに入場できる。

シャノンはこうした一連の仕組みを提供する会社だ。そのユーザーである、見本市やセミナーなどの「主催者」は同社製のシステムから申込者の属性や興味などの情報を把握する。主催企業にとっては、潜在的な来場者にアプローチし、申し込みから来場の有無、何に興味を持ち、来場動機は何なのか等を自社でマネジメントするのは大変だ。

シャノンはそうしたニーズを汲み取り、ITを活用するこ

Profile◉なかむら・けんいちろう
1977年生まれ。2000年8月、有限会社シャノン設立、代表取締役社長就任（現任）。2002年4月、有限会社シャノンより株式会社シャノン（現当社）へと組織を変更。2017年5月、NPO法人アップエクスチェンジコンソーシアム監事就任（現任）。2017年8月、一般社団法人シーコンソーシアム理事長就任（現任）

とで一貫して主催企業に必要なノウハウを提供するのだ。

シャノンの中村氏は創業初期からセミナー等のデータ管理やマーケティング支援に取り組み、数々のベンチャー賞を受賞。優秀技術ランキングにも何度もノミネートされてきた。中村氏がいち早くこの分野にシフトしたきっかけは何だったのだろう？

「創業後間もない時期に知人を通じてイベント申込・来場管理をするシステムを提供できる会社を探していると聞き、挙手したのです。」（中村氏）

企業・専門家向けのセミナーを年間、数多く開催している有名会社とシャノン中村氏との出会いから、トントン拍子に開発が進んだという。もし、主催企業の声掛けが一年後だったら？　イベントシステム支援を祖業とする現在のシャノンは今とは違う会社になっていたかもしれない。結果的には、企業が求めた時、中村氏とシャノンは絶好のタイミングでそのツボにはまった。

「最初に大手有名企業と仕事できた運の良さも、実力のうちと思うようにしています。毎日、神棚に一礼して、業務に邁進できる環境に感謝を怠りません」。ちなみに中村氏は奈良県出身、今年44歳の働き盛り。緻密さとすかっと明るい雰囲気を併せ持つ。こうした人物に幸運はやってくるのだろうと感じさせる。

「中村は動かない方がいい時は雌伏。動くときのタイミングが実に絶妙。感心します」と経営管理担当・取締役の友清学氏。

順調に展開してきた同社だが、コロナ禍でリアルなイベント、大規模展示会、見本市などの開催延期が相次ぎ苦境では？　しかし、シャノンにはすでに新たな風が吹き始めていた。

成長軸としてバーチャル展示会関連事業を積極的に推進。営業人材を採用中だ。

360度パノラマビューワーで臨場感あるバーチャル空間を提供する展示会なら人々は出かけずとも国内外の様々な商品を閲覧できる。

リアルではまず「会場」を押さえなければならず希望日に開催できないこともある。どれだけ協賛企業が集まるか不明でも巨額の借り賃先払いが痛手にもなる。

しかし、シャノンのバーチャル展示会なら会場にまつわる悩みがなくなる上、会場費の現金先払いの負担感も解消できる。

主催者は大中小いずれも可能でバーチャル展示会用商品は『実写』等でOK。集客メール配信から申込者管理、来場や行動データを管理からコンテンツ単位での閲覧ログの取得もシャノンが引き受ける。

DX推進の世界的風潮の中でシャノンがその追い風に乗って業績を飛躍させる日も近い。株価はまだ本稿執筆時1200円前後だ。ぜひ、投資対象として研究したい。



▲対談は、中村社長が創業間もない頃の話から、現在取り組んでいる新規事業の成長性にまで及んだ

シャノン［会社概要］

本　　社	東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル4F
設立年月日	2000年4月
上場年月日	2017年1月27日
コ ー ド	3976（マザーズ）
従業員数	201名（2021年4月末現在）
決　　算	10月
単元株数	100株

対談を終えて…

世の中の流れに吸い寄せられるように才能が開花し、それがまさに人のニーズにジャストマッチし、大きなビジネスに育って行く。中村社長にインタビューしているうちに2000年からの日本経済史をパノラマで見ているような気持ちになった。大企業とのマッチング、成長、上場、株式分割、コロナ禍の災い転じて福となすかのようなバーチャル展示場の提案。まさにタイミングのいいことこの上ない。ただならぬ商機を掴む力に中村社長、シャノンの未来をみた気がした。　木村佳子（21年6月16日取材）